

南山城村 童仙房

ヒアリング対象：坂内里恵さん

2012年南山城村に家族で移住

版画作家、有機栽培のトマト農家「ハト畑」を夫婦で営む

都会で暮らした人たちが、田舎で暮らすことは、
田舎を活気づける大きな存在になるのでは。



デッケコルニル加奈子さん

左京区在住
どろんこ 主催



○移住して良かったことは？

友人との距離が縮まったと思います。移住や就農に踏み込んだことで、以前から気になっていた方々が関心を抱き、激励の言葉をいただいたり、遊びに来てくれたりすることが増えました。

また、自然の中に住まわせていただいているという感覚を持つことができました。健康を取り戻したこと。近所のおじいちゃん、おばあちゃんから役場の職員まで何かと声をかけてもらえることです。

○子育てに関して

親子で一緒にいる時間が増えて、子どもに自分の仕事を間近で見てもらえるようになりました。その反面、村内に保育所や小中学校がそれぞれひとつしかなく、教育の選択肢がありません。個性を伸ばす教育よりも、集団の中でのふるまいを重視するため、子どもが縮こまってしまいます。

教育機関に頼るのではなく、子どもを中心に暮らしていくことで公共教育の不満点を補うことにしています。子どもが5才前後の移住だったため、子どもが以前の暮らしと現在の暮らしを比較することがたまにあります。以前の暮らしを懐かしむ素振りを見せるときは申し訳なく思います。

近所に年齢の近い子どもが少ないので、親も含めて友達を呼んでいきたいと思っています。

また、鹿や猪に畑を荒らされたり、一方で村の猟師さんから鹿・猪肉をいただき、動植物との関わりを日常的に触れることができます。「これは近所の○○さんのつくった野菜」などの会話で食卓が豊かになったり、働く人の姿を毎日目にすることができます。仕事内容も農業を中心としているので子どもにもわかりやすいと思います。

あと、泥遊びや土遊びが思う存分出来る環境が良いと思います。



○子育て世代・移住者の声

思い切ったことしたね、つてときどき言われるけれど、私にとってはとても自然な流れで今ここにいる感じがするので移住してよかったことも悪かったこともないのですが、移住してうれしいことは、友だちが増えた。つながりたかった人とつながりました。

自然が近い＝すぐかびる、虫が多い、ととっても大変です。掃除するとか、物を減らすとかしないとやっていけない。大変だけれどとてもいいことだと思うし、昔の人はそうだったんだろうなあと思います。家事に時間がうんとかかるようになりました。やりたいことたくさんあるのにとても手が回らなくて、、、みんな段取り上手だなあと近所のみなさんのきれいな畑に感心してます。

村には普通の公立保育園しかないけれど、せっかくこんなところに住んでいるのでもっと野放しな保育園だといいな、と思います。

自主保育など興味あるけれど子どもが少ない。特に娘が引越し当初保育園になじめなかったこともあり、村の保育園はひとつの場所ではなくて、他にもいろんな場があり人たちがいて、いろんな価値観があるんだよ、ということ子どもに感じてほしいなと思います。週末などにいろんな活動に参加したり、いろんな人と会うようにしています。

